

会務報告

◇ 委員会報告 ◇

● 大会委員会

◆ 2009年8月22日、日本語教育学会事務局会議室において、2009年度第4回大会委員会が開かれた。主な議題と審議の様子は以下のとおりである。

1. 2009年度秋季大会(九州大学)の進捗状況

(1) 開催全体の進捗状況の報告

- ・事務局より、プログラム、ポスターの送付や予稿集の納品予定などについて報告があった。
- ・前委員会以降、口頭発表の辞退(1件)、パネルのパネラー1名の辞退(1件)があり、それぞれへの対応について承認した。
- ・当日の会場や2日目の弁当の手配などについて確認した。

(2) 司会者の決定、配付資料の扱い

各会場の司会者を決定した。また、会場での配付資料およびポスター発表における展示物の申請について検討した。最近、ポスター発表のときにコンピュータで資料を見せるという形が増えている。大会のポスター発表でのパソコン使用は教材を示す場合のみ認めることを改めて確認した。

(3) シンポジウムの進捗状況

進捗状況について、松岡副委員長から簡単な報告を受けた。なお、今回は会場校の企画で行っており、大会委員は主に会場準備の面がかかわる。

2. 2010年度春季大会以降の企画・運営について

(1) 春季大会1日目のパネル

2010年春季大会においても、今年度と同様に1日目に応募者によるパネルを行うことを確認した。

(2) 学会賞・奨励賞受賞者の講演

理事会から問題提起のあった、受賞者による大会での講演の可能性について検討した。春季大会での講演という提案については、プログラムに時間の余裕がないこと、などの問題点が出された。

3. その他

(1) 大会アンケートの集約

従来事務局で行なっていたが、次回から大会委員会として集約を行うことにする。その手順や担当のローテーションを決めた。

(2) 規定内容の検討

応募規定に関わる問題について検討し、以下のように確認した。

- ・大会での連続した発表については、発表の回数ではなく内容によって採否を決定する。
- ・団体会員が団体名での応募に関して、現時点では団体名での申し込みはないが、大会委員会としての対応を考慮しておく必要がある。定款では、団体・法人会員に関し、口頭発表についての資格が記載されていない。この点について、理事会での検討をお願いする。
- ・デモンストレーションでは、査読用要旨Bの提出を求める(応募規定の修正)。

(3) 各種説明会のエントリー方法

2日目の昼の説明会について内規を作り、次回大会から適用する。

(4) 査読や審査方法の改善

査読基準の確認や査読手順の改善について、次回の委員会で話し合う。

次回委員会は、2009年10月11日(日)12時開催予定。

(二通 信子)

● 学会誌委員会

◆8月29日(土)午後2時から学会事務局会議室で委員会を開催した。出席委員16名、欠席委員7名、事務局陪席1名。まず、143号の進捗状況、144、146、148号の特集の進捗状況、学会誌掲載論文の電子媒体での公開ポリシーについての報告の後、コラム「海外の学会から」、144号投稿論文の採否、学会誌のリニューアルについて審議した。144号の投稿論文の採否は審査の結果、対象件数40本について、条件採用7本、再投稿13本、不採用19本、保留1本という結果となった。(保留分については、その後「条件採用」とした。)過去の掲載論文と同テーマの投稿があった場合、その新規性を重視して査読を行うことが確認された。次回会議は11月28日の予定。なお、委員会終了後、引き続き、学会誌リニューアルについて検討するWGの会議が行われた。

(廣瀬 正宜)

● 研究集会委員会

I. 研究集会報告

1. 平成21年度第1回研究集会(九州・沖縄地区)
日時: 2009年5月30日(土)13:00~17:10

会場：宮崎大学木花キャンパス教育文化学部棟
参加人数：65名（会員50名，一般15名）
内容：研究発表12件，ポスターセッション4件
講演：講師 川口義一氏（早稲田大学教授）・横溝紳一郎氏（佐賀大学教授） 題目「学習意欲について考えてみよう！」

今回の研究発表は大学院生5件，現職者11件で，4会場（口頭発表3会場，ポスター発表1会場）に分かれて行われた。内容は，言語習得，文法，学習環境，スピーチのレベルシフト，古典，実践報告など多岐にわたり，各会場とも熱気溢れる発表となった。3年前の鹿児島，昨年の沖縄，今年の宮崎と，福岡以外の地域でも20本近い応募が集まるようになってきており，ここ数年の課題である「九州地区の研究者，学生の掘り起こし」が着実に成果を挙げているようである。また，川口・横溝両氏による講演は2人の講師が互いの意見や実践方法を語り合う形で進められたこともあり，非常に具体的で分かりやすく，参加者からも好評を得た。

（報告者：小山 悟）

2. 平成21年度第2回研究集会（会員研修）

日時：2009年5月31日（日）10:00～16:30
会場：宮崎大学木花キャンパス教育文化学部棟
参加人数：41名（会員25名，一般16名）
内容：会員研修 講師 川口義一氏（早稲田大学教授）・横溝紳一郎氏（佐賀大学教授） 題目「教師はどうやって学習者のやる気を引き出せるのだろうか？」

前日の講演に引き続き，川口・横溝両氏による会員研修が行われた。この研修は，まず川口氏が「個人化」と「文脈化」をテーマに学習意欲の向上につなげる方法について紹介した後，次に横溝氏が学習者のやる気を引き出す「助言」「アドバイス」のあり方について紹介し，最後に二人の講師と共に「支えあう学習集団の創造」について考えるという手順で進められた。ワークショップ形式で行われたこともあり，参加者も大変積極的で，講師と参加者とのやり取りも頻繁に行われた。終了後に行ったアンケートでは，参加者から「川口先生の分脈化と個人化という視点から授業の改善方法の，横溝先生のアドバイス・助言の方法論から学生との個人的な関係の構築方法のヒントが得られた」，「学習者一人一人と向き合うことの重要性を改めて感じた」，「明日から少し意識を変えていきたい」などの感想が寄せられた。

（報告者：小山 悟）

3. 平成21年度第3回研究集会（中部地区）

日時：2009年6月13日（土）10:00～16:45
会場：愛知学院大学12号館
参加人数：162名（会員90名，一般72名）

内容：研究発表18件，パネルセッション1件
題目「外国人ケア労働者の受入は医療福祉現場，地域社会，日本社会，そして日本語（教育）をどう変えるか」

平成21年度日本語教育学会第3回研究集会が，6月13日（土）に愛知学院大学で開催された。今年度は研究発表とパネルセッションが企画された。

今回の研究発表は18件（内1件辞退）で，4会場に分かれて行われた。内容は，談話，意味・文法，音声，教室活動，教材開発，習得など多岐にわたり，各会場ともに活発な質疑応答が交わされた。

パネルセッションでは各分野の専門家が招かれ，外国人ケア労働者の受入について，現在抱えている問題や労働者への対応，今後の課題などについて議論された。質疑応答の時間も設けられ，多様な意見や質問が交わされた。

例年のように中部地区ならではの昼食交流会も設けられ，尾崎明人日本語教育学会会長の挨拶に始まり，和やかな雰囲気の中で有益な情報交換が行われた。

（報告者：李 澤熊）

4. 平成21年度第4回研究集会（北陸地区）

日時：2009年6月20日（土）10:00～17:00
会場：富山駅前CICビル
参加人数：86名（会員31名，一般55名）
内容：研究発表5件，活動報告3件
講演・ワークショップ 講師 池田玲子氏（東京海洋大学教授） 題目「協働の可能性を探る—ピア・ラーニングの実践を通して—」

講演・ワークショップでは，「ピア・ラーニング」の理論と実践，更に教室を超えた幅広い分野での「協働」の実践について，講演やワークを通して体験的に学んだ。特に「協働」の実践は，日本語教師や日本語ボランティア，国際交流関係者など，様々な専門性や立場の参加者にとって有意義な内容であった。

活動報告は，地域での活動2件とロシアでの日本語教育1件の計3件だった。いずれも「協働」の視点を盛り込んだ内容で報告がなされた。報告の形式は，まず7分ずつの口頭発表で活動の概略を説明し，その後25分程度，ポスター発表形式で活動の詳細な報告と意見交換を行なった。最後に講演者でもある池田玲子氏に「協働」の視点から各報告についてまとめていただいた。研究発表は，5件で，様々な分野での研究発表となった。

参加者が86名と，多くの方の出席を得ることができた。池田玲子氏の講演・ワークショップに興味を持ったという方も多かったであろうが，大学，日本語学校，国際交流関係機関，地域の日本語教室など，幅広く広報活動を行なった成果もあると思われる。反省点としては，内容が盛りだくさん

であったため、全体を通して時間的にあまり余裕がなかったことがある。一因として、地方ではこのような機会が持ちにくいと、できるだけ多くの参加者にとって有益な内容となるよう配慮したことも挙げられる。内容と時間配分のバランスとが、今後も課題となるであろう。

(報告者：中河 和子)

5. 平成21年度第5回研究集会(北海道地区)

日時：2009年7月25日(土)14:00~17:10,

7月26日(日)10:00~16:00

会場：北海道教育大学札幌校

参加人数：84名(会員42名, 一般42名)

内容：1日目：ワークショップ 講師 砂川有里子氏(筑波大学教授) 題目「コーパスを活用した日本語教育—身近な言語データの利用術—」

2日目：口頭発表4件, ポスター発表2件, 活動報告 テーマ「学校教育における日本語教育の現状と課題」

ワークショップは、第一部でコーパスを用いての日本語の語法や類義語の研究が紹介され、第二部で参加者はグループに分かれ、実際にパソコンから無線LANを通じてコーパスにアクセスしながら課題に取り組んだ。研究発表は4件で、学習動機、ブログでの学習支援、日本語研修アシスタント制度、外国人教師に対する文法指導研修についての発表があり、各発表に対して活発な質疑応答が行われた。ポスター発表は2件で、学習資源としてのアニメ映画の利用、留学生と学部学生の協働活動についての発表が行われた。活動報告では、札幌市およびその周辺地域の学校教育における日本語教育の現状と課題について、現場教員、日本語指導ボランティア、保護者、教員養成大学の各立場からの報告が行われた。今後も増加が見込まれる外国人児童・生徒等の教育に関する諸問題について報告者・参加者の間で共通理解が深まるとともに、行政・教育委員会・学校側に積極的な取り組みを求める点で意見が一致した。報告者と参加者との間で活発な質疑応答が行われ、会の終了後も会場で報告者を囲んで意見交換が続くなど、報告者・参加者双方にとって情報を共有する有意義な機会となった。

(報告者：大賀 京子)

6. 平成21年度第6回研究集会(東京地区)

日本語教育実践研究フォーラム「実践研究からの発信—実践を見せる記述, 実践が見える分析—」

日時：2009年8月1日(土)10:00~16:30,

8月2日(日)9:30~16:30

会場：早稲田大学東伏見キャンパス

参加人数：263名

内容：ラウンドテーブル10件, ポスター発表24件
講演・パネルセッション 講師 酒井朗氏(大妻

女子大学教授)

題目「授業を質的にどう分析するか？」

※実践研究フォーラム報告詳細は本誌72~85ページ参照のこと。

II. 会議記録

◆平成21年度第3回研究集会中央委員会(7月23日)

1. 2009年度実践研究フォーラムの運営について

- (1) パネルセッションについて
- (2) 各ラウンドテーブルの準備状況と確認
- (3) ポスターセッションについて
- (4) 当日の進行について
- (5) WEB版実践研究フォーラム報告について

2. その他

- (1) 2009年度後半の会議日程の決定
- (2) タイ国日本語教育研究会からの相談について

※次回会議日程

全体委員会 2009年10月10日(土)

中央委員会 2009年10月15日(木)

(堀井 恵子)

● 教師研修委員会

I. 研修実施報告

1. 合宿研修「考える・伝える・学びあうⅡ—“豊かな”学びの支援に向けて—」

ワークショップ①教師の成長「教師としての自分を丸ごと見直して、明日への第一歩を踏み出そう！」講師：横溝紳一郎(佐賀大学), 河野俊之(横浜国立大学)

ワークショップ②読み・書きスキル「留学生を対象とした「読み」「書き」スキル養成のための教材と教室活動」講師：二通信子(東京大学)

ワークショップ③ピア・ラーニング「ピア・ラーニング—協働による読解から作文へ—」講師：館岡洋子(早稲田大学)

開催日：2009年8月8日(土), 9日(日)

場所：(財)海外職業訓練協会(OVTA)(千葉)

参加者：82名

2. 日本語アトリエNKG第3回「海外の日本語教育について話そう—キャリアの視点から—」

ゲスト：タサニー・メーターピスィット(タイ・タマサート大学), 鈴木由美子(早稲田大学)

開催日：2009年9月18日(金)

場所：日本語教育学会事務局会議室

参加者：13名

II. 今後の研修予定

1. 短期集中研修「大規模試験を見る目・現場に活かす力を養うー課題遂行能力の育成と測定にむけてー」

講師：伊東祐郎（東京外国語大学），大隅敦子（国際交流基金日本語試験センター），畠山理恵（同）
開催日：2009年10月24日（土）

場所：東京国際大学早稲田サテライト

定員：50名

2. 短期集中研修「日本語教師のための統計学入門（後半）」 ※本研修は4月の研修の続編です。

4月の研修に参加されていない方で、参加ご希望の方は、事前にご相談ください。

講師：黒沢学（東京電機大学）

開催日：2009年12月13日（日）

場所：東京海洋大学

定員：80名

3. 短期集中研修「ケース(事例)で学ぶビジネス日本語教育一問題解決型討論活動のデザイナー」

講師：池田玲子（東京海洋大学），近藤彩（政策研究大学院大学），神吉宇一（財）海外技術者研修協会）

開催日：2010年1月9日（土）

場所：政策研究大学院大学

定員：30名

4. 短期集中研修「教室活動のデザインⅢ」

講師：ボイクマン総子（筑波大学），齋藤伸子（桜美林大学）

開催日：2010年2月13日（土）

場所：桜美林大学四谷キャンパス

5. オンライン研修

「日本語教師のためのOn-Line IT講座基礎編」

開催日：2010年2月～3月（予定）

6. オンライン研修

「日本語教師のためのOn-Line IT講座活用編」

開催日：2010年1月～3月（予定）

7. 日本語アトリエNKG

開催日：原則として、3月，6月，9月，12月に実施予定

場所：日本語教育学会事務局会議室

定員：各回20名

◆「日本語教師研修コース」についての詳細は日本語教育学会Websiteの教師研修ページをご覧ください。詳細が決まり次第，順次ホームページに掲載していきます。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/nkg/menu-kenshu.htm>

III. 委員会での討議事項

1. 2009年度第3回教師研修委員会（8月9日）

(1) 集中合宿研修の反省

(2) 2009年度後半の研修について

※次回の教師研修委員会会議予定

2009年10月17日（土）

（嶋田 和子）

● 試験分析委員会

第3回試験分析委員会 2009年7月30日（木）

1. 『平成20年度（2008年12月実施）日本語能力試験分析報告書』の原稿（文字・語彙類，聴解類，読解・文法類）について話し合われた。

2. 事務局からデータに関する説明があった。

3. 試験小委員会との合同委員会の日程調整について報告があった。

第4回試験分析委員会 2009年8月21日（金）

1. 『平成20年度（2008年12月実施）日本語能力試験分析報告書』の原稿（2章，文字・語彙類，聴解類，読解・文法類）について話し合われた。

2. 分析報告会（9月30日）への出席者を検討した。

3. 試験小委員会との合同委員会の日程調整について報告があった。

4. 分析報告書の出版社が決定されたことについて報告があった。

第5回試験分析委員会 2009年9月19日（土）

1. 『平成20年度（2008年12月実施）日本語能力試験分析報告書』の原稿（2章，聴解類，読解・文法類）について話し合われた。

2. 今後の日程の確認と調整が行われた。

（野口 裕之）

◇ 事務局からのお知らせ ◇

● 2009(平成21)年度会費納入のお願い

当学会の事業活動の円滑な推進を通して、会員各位の教育・研究に資すること、並びに、海外における日本語教育活動との交流や支援に寄与することが一層求められています。学会の活動の重要性をぜひご理解賜り、会費納入にご協力くださいますようお願いいたします。

ご送金の際は、必ず会員番号を通信欄に明記してください。

<会費納入方法>

○郵便振込 00140-5-64631

○みずほ銀行新橋支店 (普)130-880757

○現金書留

銀行の支店の統合により、「みずほ銀行」への会費振込先が上記のとおり変更になりました。ご注意ください。

● 年度会費自動引落システムのご案内

日本国内に銀行口座等をお持ちの方々を対象に、「年度会費の自動引落システム」の運用を開始いたしました。全国の金融機関(銀行・信用金庫・信用組合・郵便局等)をご利用いただけます。詳しくは事務局会員サービス係(kaiin@nkg.or.jp)までお問合せください。

● 住所等の変更について

郵便または下記のいずれかの連絡先にお知らせください。

FAX : 03-5216-7552

E-mail : kaiin@nkg.or.jp

なお、メールアドレスを新設された方や、メールアドレスを変更された方は、①会員番号②氏名③名簿への記載の可否を、メールでお知らせください。タイトルは「学会員メールアドレス登録」としてください。電話での連絡は、ご遠慮願います。

● 学会誌メールアドレスについて

学会誌に関連するお問合せは、学会誌専用アドレスにご連絡ください。

学会誌専用 : gakkaiishi@nkg.or.jp

● お詫びと訂正

『日本語教育』142号に誤りがありましたので、お詫びして、下記のとおり訂正します。

『日本語教育』142号

P. 220 表内 常置委員会一大会の欄

誤) 宮副ウオン裕子

正) ○宮副ウオン裕子(註: ○は副委員長)